

日本液晶学会誌執筆要項

(平成30年4月改訂)

1. 原稿

1.1 本会提供のテンプレートを使用して原稿を作成すること。

2. 本文

2.1 文章は現代仮名遣いで作成すること。

2.2 学術用語は原則として文部科学省の「学術用語集」および日本学術振興会情報科学用有機材料第142委員会液晶部会編「液晶辞典」に従う。

2.3 見出しの番号の付け方は、テンプレートの仕様見本に従うこと。

2.4 数字の位取りはしないこと (1,858とせず1858とする)。

2.5 単位はSI単位を使用すること。

2.6 引用文献は、本文中の引用する箇所に^{1), 2), 4-7)}のように上付きの通し番号で記載し、下記の形式に従って文末にまとめて記載すること。また、同一著者かつ同一雑誌名であっても巻、最初の頁数が異なる場合は、別々に記載すること。

学術雑誌の場合

1) 山口太郎, 宮崎花子, 液晶, **8**, 5 (1980).

2) F. Leinitzer, Monatsh. Chem., **9**, 421 (1888).

・『著者名全員, 雑誌名, 巻, 最初の頁数 (発行年).』の順番で記載する。

・雑誌名の略称は, ISOに従う。

・巻の番号は太字とする。

本の場合

1) 竹田政民, 「液晶高分子」(飯田一賢, 浅田忠裕, 阿部明編), p. 1 (1988), シグマ出版, 東京。

2) P. G. de Gennes and J. Prost, *The Physics of Liquid Crystals* (Oxford University Press, Oxford, 1995) 2nd ed., p. 20.

・和文では『著者名全員, 「題名」(編者名), 頁数 (発行年), 出版社, 出版地.』, 英文では『著者名全員, 題名 (出版社, 出版地, 発行年), 頁数』の順番で記載する。

・和文題名のみを「 」付きとする。

学会要旨集の場合

1) 液晶花子, 2000年日本液晶学会討論会予稿集 (2000).

2) T. Yamaguchi and H. Akita, Ext. Abstr. 20th Int. Liquid Crystal Conf., 2000, p. 30.

・“International,” “Proceedings,” “Conference”などは略称を用いる。

特許の場合

1) A. C. Smity, U.S. Patent 3390940 (1988).

2) 岩井彰, 長谷川雅浩, 四宮時彦, 山田祐一郎, 特開2006-2012401.

学位論文の場合

1) 液晶太郎, 東京大学工学系研究科博士論文 (2014).

2) H. Kagawa, Dr. Thesis, Faculty of Science, University of Tokyo, Tokyo (2002).

2.7 原稿の長さは, その種類により投稿規定 (3.2) に定めるとおりとする。

26字×46行×2段=2392文字が, 1ページ相当となる。

ただし, 第1ページは, タイトル・著者名・アブストラクトを考慮すること (標準的には記事種別ロゴ: 208文字, タイトル: 104文字, 著者名: 52文字, キーワード: 52文字, 脚注 (著者情報): 130文字, その他: 156文字相当となる)。

原稿の種類が巻頭言の場合は, 1ページ目は42文字×39行 (37行)=1638 (1554) 文字が, 2ページ目は42文字×46

行=1932文字が、1ページ相当となる（括弧内は、タイトルが2行となる場合）。

- 2.8 総説・解説などの記事の中で、主たる主張と関係の薄い計算式誘導過程、装置の詳細などについて、記事の末尾に付録を掲載することができる。この際、図表の番号は、本文と切り離して付する。
- 2.9 若手研究者の紹介は基本的には写真を掲載する。ただし必須ではなく、本人からの申し出があった場合には非掲載とする（写真：130文字相当）。
- 2.10 巻頭言、総説、解説、講座、研究現場最前線は著者紹介の写真を掲載する。ただし必須ではなく、本人からの申し出があった場合には非掲載とする。また、総説、解説、講座、研究現場最前線では著者ショートコメントを掲載する（20～40字）。

3. 図表

- 3.1 写真は図として取り扱う（写真・図の推奨解像度：写真600dpi、図1200dpi以上を目安とする）。
- 3.2 図表の番号は、図1、図2…、表1、表2…とし、通し番号を付す。
- 3.3 総説・解説記事の図表中の文字および説明文は、英文とする。
- 3.4 カラー図版は、Web公開に限って認める。解像度は600dpi以上を目安とする。但し、冊子体はモノクロ印刷されることを考慮して作成すること。
- 3.5 他文献からの図表の引用時には、必ず引用文献番号を説明文に付し、併せて著者の責任のもとに引用の許諾を得ること。
- 3.6 図表はパワーポイント、PDFなどで文章とは別のファイルに出力すること。
- 3.7 図表の希望配置位置がある場合は、挿入希望位置をページ右余白に示すこと。ただし、配置によっては希望どおりにならないこともある。

4. 記事の要旨

- 4.1 総説・解説の記事には英文要旨（タイトル・著者名を含めて約200語）とその和訳、および3～5語の英文・和文それぞれのキーワードを付けること。
- 4.2 英文要旨の構成は、記事の対象範囲、研究手段や方法、新しい事実、現象とその解釈、結論の順にするのが好ましい。